

2026年3月期第3四半期 決算説明資料

2026年2月16日

目次

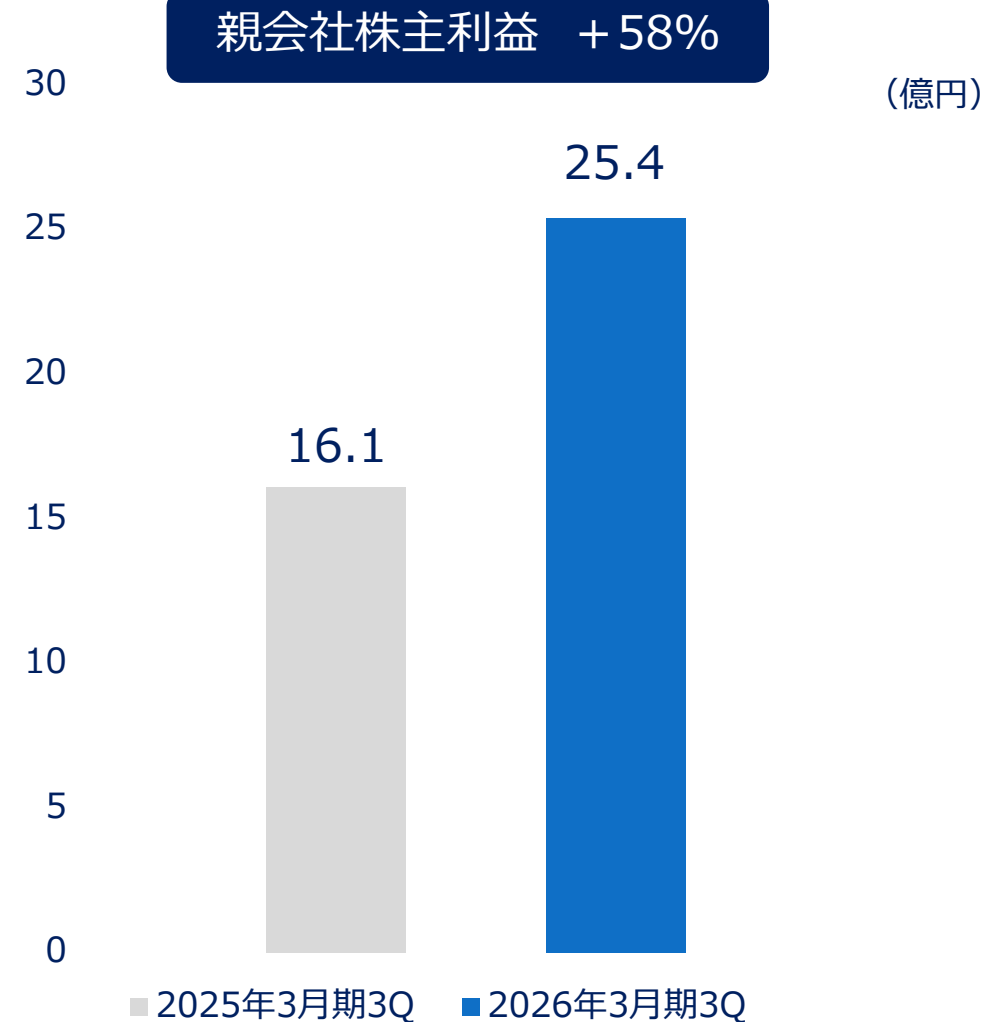
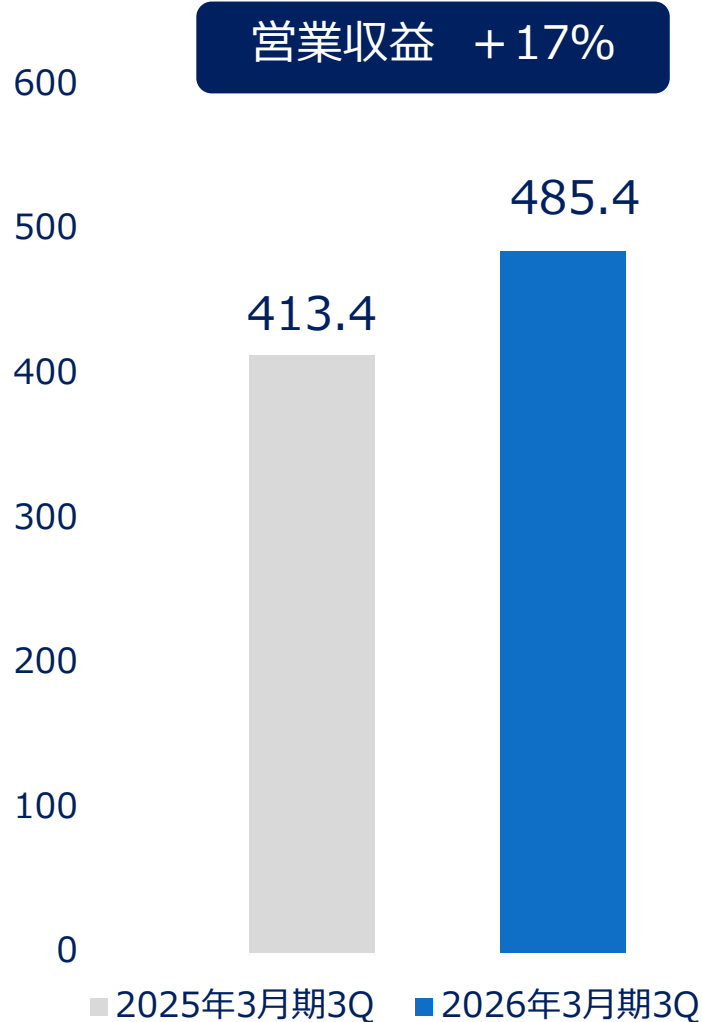
1. 2026年3月期第3四半期 決算の概要
2. 業績予想 及び 配当予想の修正について
3. Appendix
 - (1) 5 か年経営数値目標
 - (2) 主要事業の概要
 - ①不動産事業（中古マンション買取再販事業）
 - ②不動産事業（高齢者施設開発事業）
 - ③証券事業

1. 2026年3月期第3四半期 決算の概要

2026年3月期 第3四半期 連結決算ハイライト（営業収益・利益）

✓ 増収・増益、第3四半期時点での最高益（親会社株主利益）

- 証券事業は堅調
- 中古マンション買取再販事業は利益率が向上、高齢者施設開発事業は1施設を売却



2026年3月期 第3四半期 連結PL

(億円)	2025年 3月期 3Q	2026年 3月期 3Q	増減率
営業収益	413	485	+17%
内、証券セグメント (*1)	119	115	▲3%
内、不動産セグメント (*1)	294	369	+25%
営業利益	29	43	+49%
内、証券セグメント	15	16	+4%
内、不動産セグメント	20	33	+68%
内、調整額 (*2)	▲6	▲6	▲0%
経常利益	25	41	+63%
税前利益	25	41	+63%
親会社株主利益	16	25	+58%

• 証券セグメント

前年同期比でわずかに減収となったが、変動部分の販管費が減少したことにより営業利益は増益

• 不動産セグメント

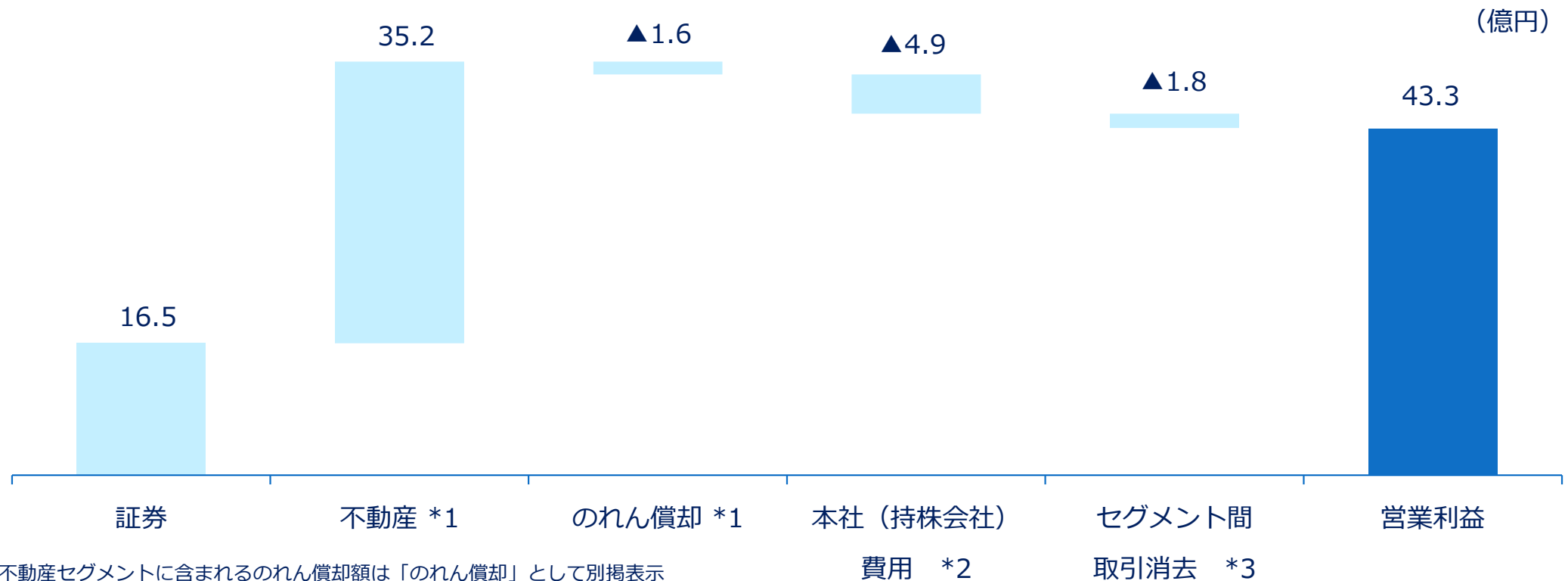
中古マンション事業は販売戸数が減少するも、利益率が向上し大幅な増益

高齢者施設開発事業では、1施設を売却

2026年3月期 第3四半期 連結PL（営業利益の構成要素）

- ✓ 連結営業利益 : 43億円（前年同期比 +49%）
- ✓ 証券セグメント利益 : 16億円（同 +4%）
- ✓ 不動産セグメント利益 : 35億円（のれん償却前）（同 +63%）

2026年3月期 第3四半期 営業利益の構成要素



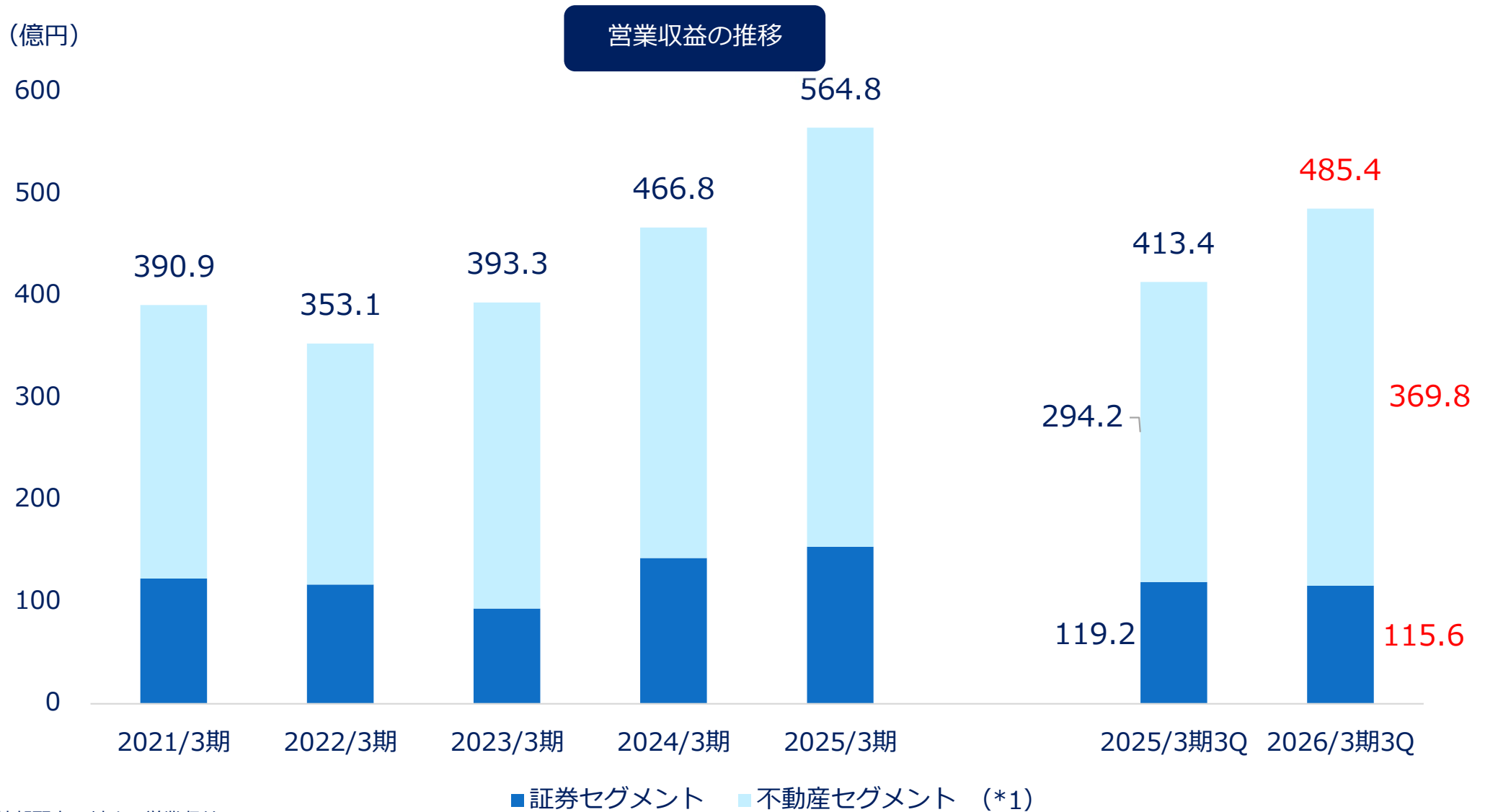
*1 不動産セグメントに含まれるのれん償却額は「のれん償却」として別掲表示

*2 本社（持株会社）費用は上場維持・グループ管理などの経費

*3 セグメント間取引は主に、当社及びあかつき証券との社債関連手数料の消去

営業収益の推移

✓ 順調に拡大、前年同四半期比で17%増加



(*1) 外部顧客に対する営業収益

2026年3月期 第3四半期 連結BS

✓ 自己資本 194億円

(億円)	2025年 3月期	2026年 3月期 3Q	増減額
流動資産	848	1,083	+234
固定資産	71	69	▲2
資産合計	920	1,152	+232
流動負債	605	828	+222
固定負債	125	122	▲3
負債合計	731	951	+219
自己資本	178	194	+16
自己資本比率	19.4%	16.9%	—

✓ 証券セグメントは預かり資産の増加により、不動産セグメントは中古マンション在庫の増加により、それぞれ流動資産・流動負債が増加。

<流動資産の主な増減内容（+234億円）>

・証券セグメント

預託金 +102億円

差入保証金 +28億円

・不動産セグメント

販売用不動産（主に中古マンション在庫） +44億円

<流動負債の主な増減内容（+222億円）>

・証券セグメント

預り金 +170億円

・不動産セグメント

有利子負債 +53億円

2. 業績予想 及び 配当予想の修正について

通期業績予想の修正

- ✓ 業績の進捗状況を踏まえ、通期業績予想を修正します。
- 証券事業は、当初発表の業績予想値を若干上振れ見込み
 - 不動産事業は、高齢者施設1件の売却が期ずれとなった一方で、中古マンション買取再販事業が当初発表の業績予想数値を大幅に超過する見込み

	(当初) 2026年3月期 通期業績予想	(今回修正) 2026年3月期 通期業績予想	増減 (%)	2026年3月期 3Q 実績
営業収益	630.0億円	660.0億円	30.0億円 (+4.8%)	485.4億円
営業利益	49.0億円	57.0億円	8.0億円 (+16.3%)	43.3億円
経常利益	44.0億円	56.0億円	12.0億円 (+27.3%)	41.0億円
税前利益	44.0億円	56.0億円	12.0億円 (+27.3%)	41.1億円
親会社 株主利益	27.0億円	34.0億円	7.0億円 (+25.9%)	25.4億円

配当予想の修正

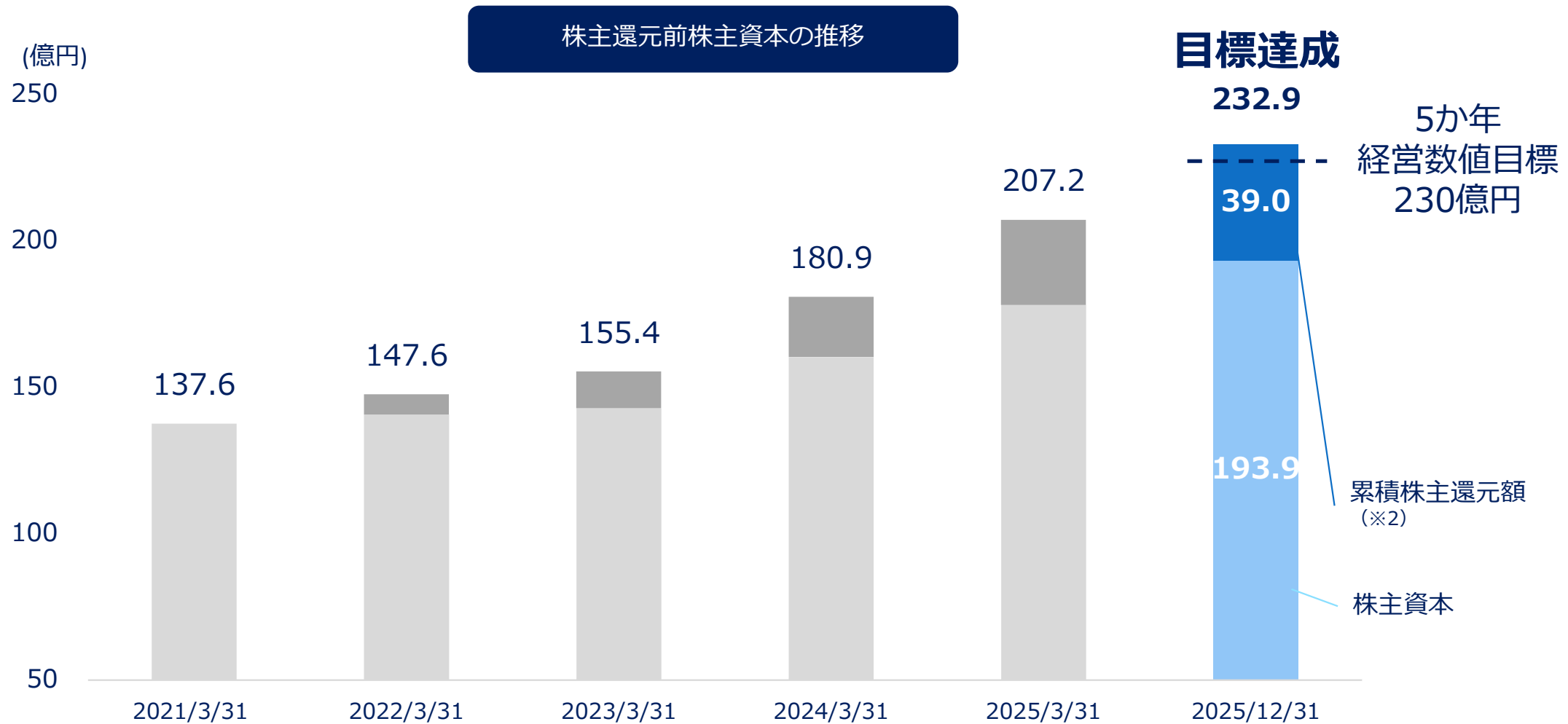
- ✓ 当社の配当方針（2019年3月期より適用）
 - ・ 財務の健全性と事業資金の確保に支障を来たさない限りにおいて、連結純資産配当率(DOE)で年間4%の水準を維持し、また、単年度の自己資本利益率(ROE)が4%を上回る場合には、その超過する部分の一部または全部を原資とし、追加の配当支払いまたは自社株買い等による株主還元を行う。
- ✓ 上記方針に基づき、2026年3月期のROEが4%を上回る見込みのため、期末配当予想の修正（増配）し、**2026年3月期の期末配当は17.5円、年間配当は30.0円**といたします。

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期 予想
中間配当	9.5円	9.5円	9.5円	11.0円	12.5円
期末配当	8.5円	9.5円	11.5円	17.0円	17.5円
年間配当	18.0円	19.0円	21.0円	28.0円	30.0円
DOE (%)	4.0%	4.1%	4.2%	5.0%	4.8%
ROE (%)	7.2%	5.5%	16.7%	15.5%	17.8%
配当性向 (%)	55.0%	74.7%	25.4%	32.3%	26.7%

3. Appendix

5か年経営数値目標

- ✓ 5か年経営数値目標^(※1)で2026年3月期の株主資本を（配当・自己株式取得等による株主還元前で）230億円とすることを掲げましたが、2026年3月期 第3四半期で232億円となり達成しました。



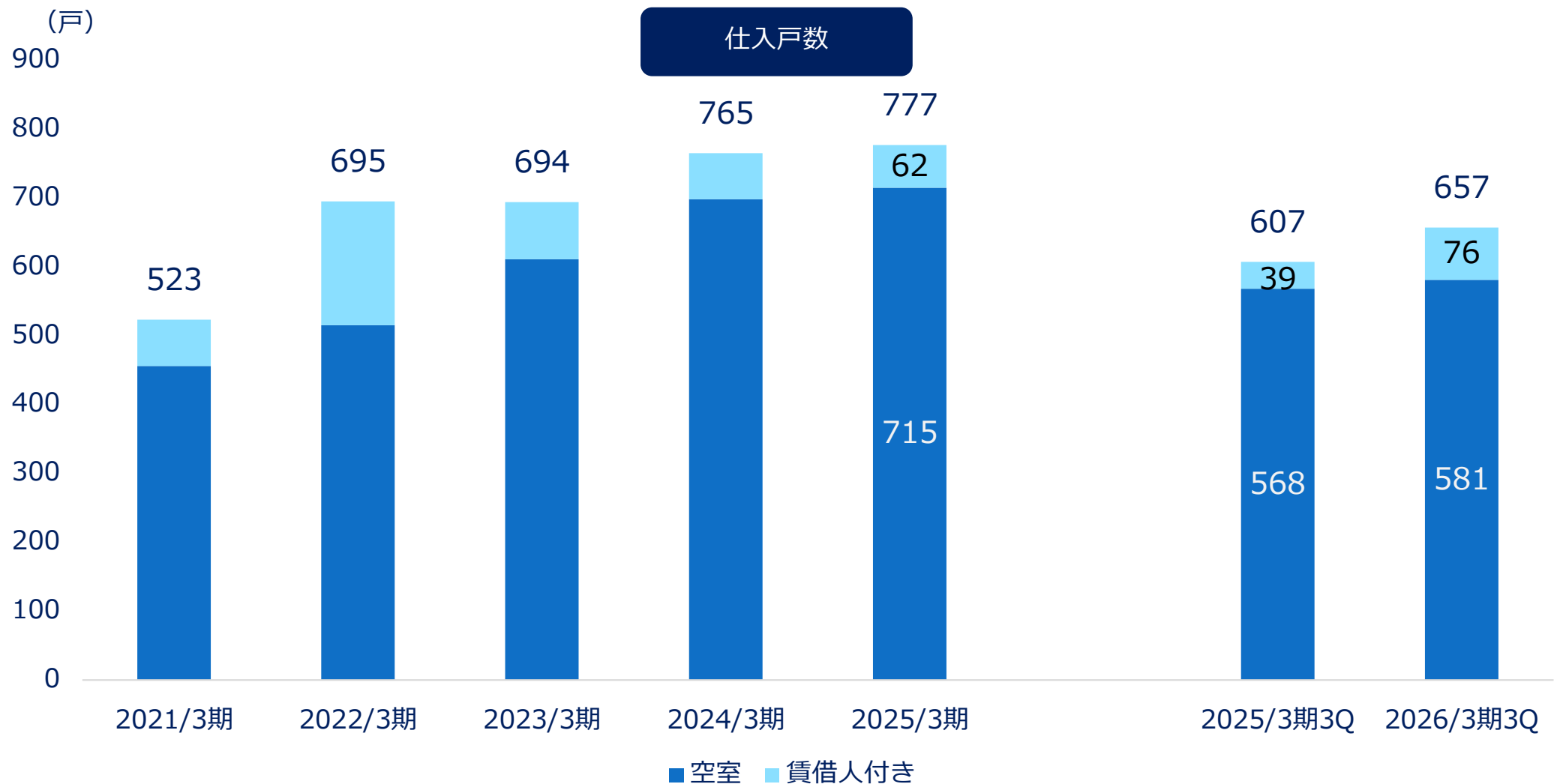
※1：2021年11月15日発表、2023年5月15日に見直しを発表

※2：累積株主還元額 = 配当 + 自己株式の取得 - 自己株式の処分（上記期間において、新株発行は行っておりません。）

不動産セグメント <中古マンション買取販売：マイプレイス・バウテックグループ>

✓ 仕入戸数は順調に増加。

- ・ 仕入戸数が将来の利益に繋がるため、営業体制や物件査定力を継続して強化



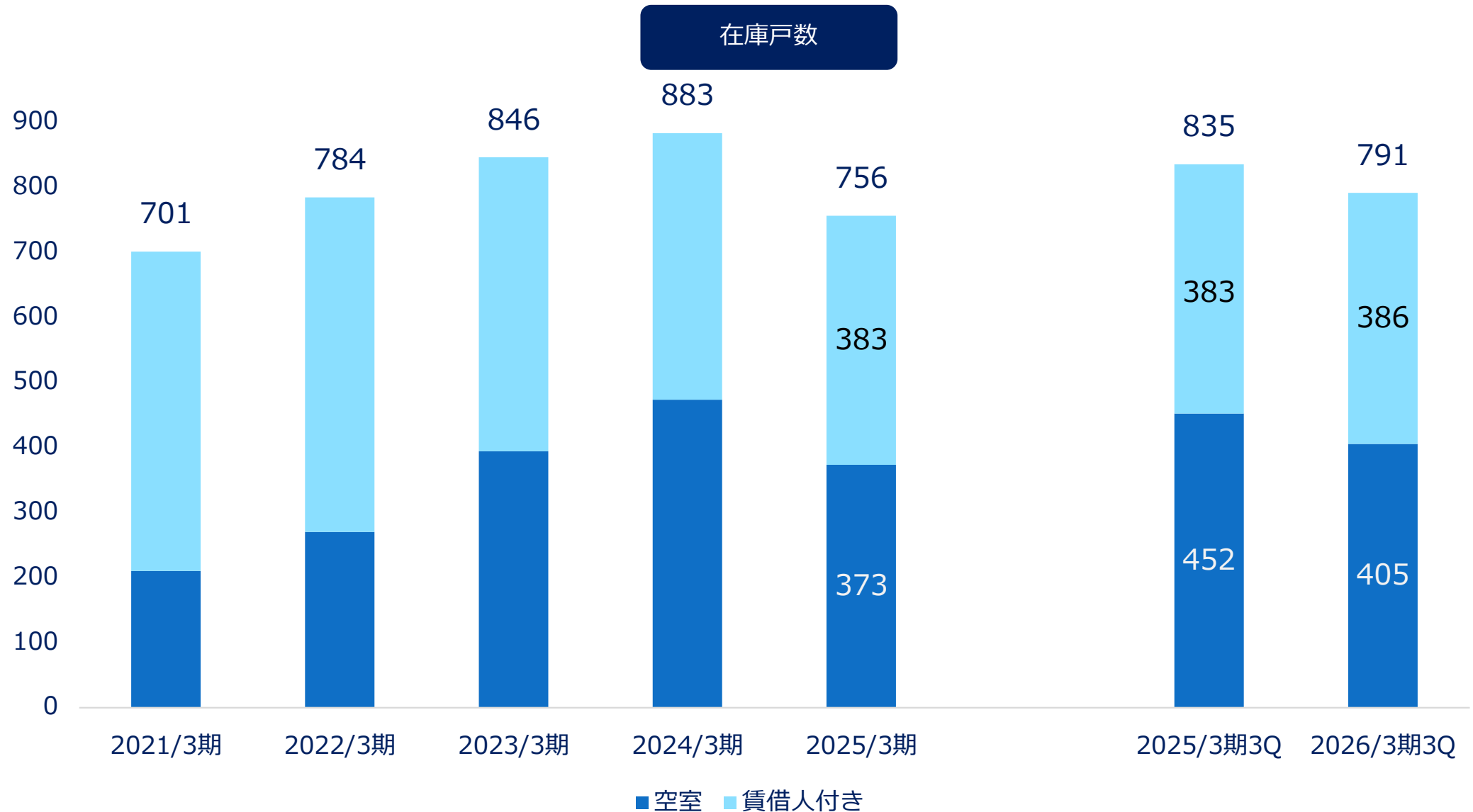
不動産セグメント <中古マンション買取販売：マイプレイス・ハウテックグループ>

- ✓ 前期販売増加に伴い、当期首在庫が減少したことにより、今期の販売戸数は減少
- ✓ 平均販売価格は上昇傾向続く。



不動産セグメント <中古マンション買取販売：マイプレイス・バウテックグループ>

✓ 在庫戸数は前期末比で35戸増加（756戸→791戸）



不動産セグメント <中古マンション買取販売：マイプレイス・ハウテックグループ>

- ✓ 戸当たりの事業期間は213日間（前年同期比 ▲15日間）
 - ・ 戸当たり事業期間の短縮により、資金効率は改善

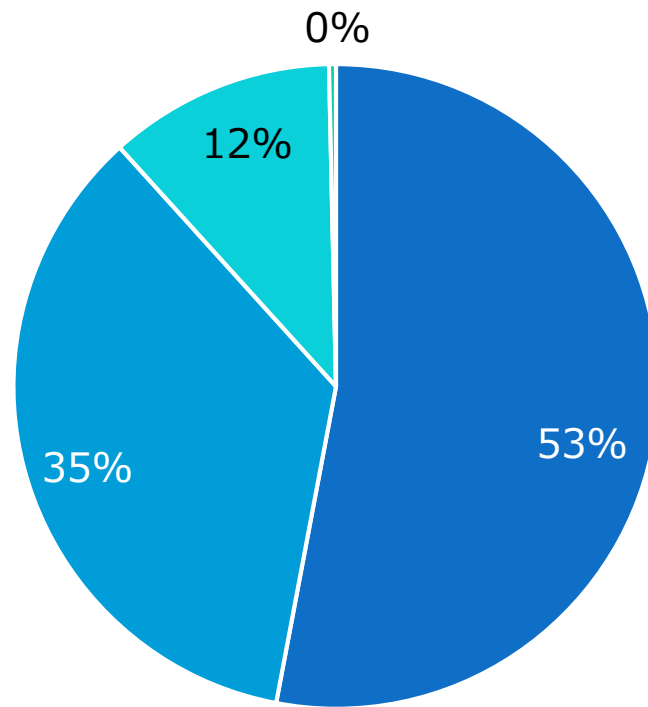
	合計	買い決済～着工		着工～完工	完工～売り決済
		仕入	設計	施工	販売
2025年3月期3Q	228日	15日		61日	152日
2026年3月期3Q	213日	14日		64日	136日

不動産セグメント <中古マンション買取販売：マイプレイス・バウテックグループ>

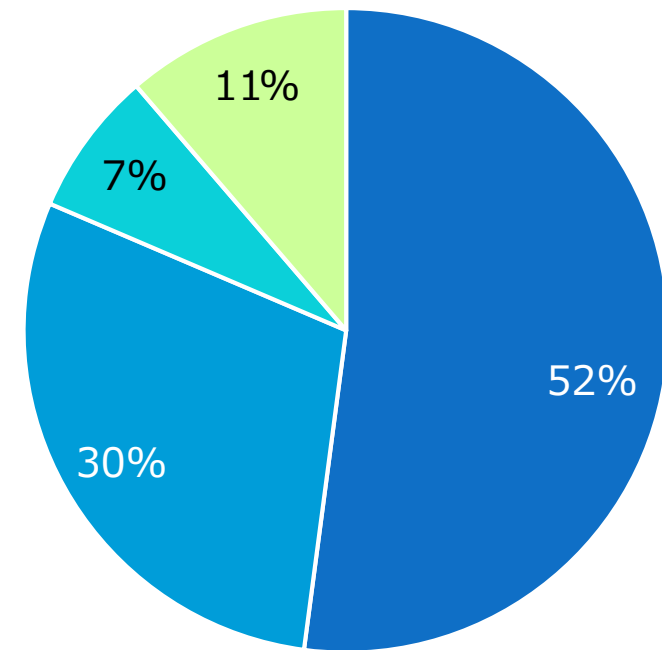
✓ エリア別販売戸数

- 販売価格の好調な東京に注力する一方で、大阪を中心とした関西エリアの開拓も順調

2025年3月期3Q



2026年3月期3Q

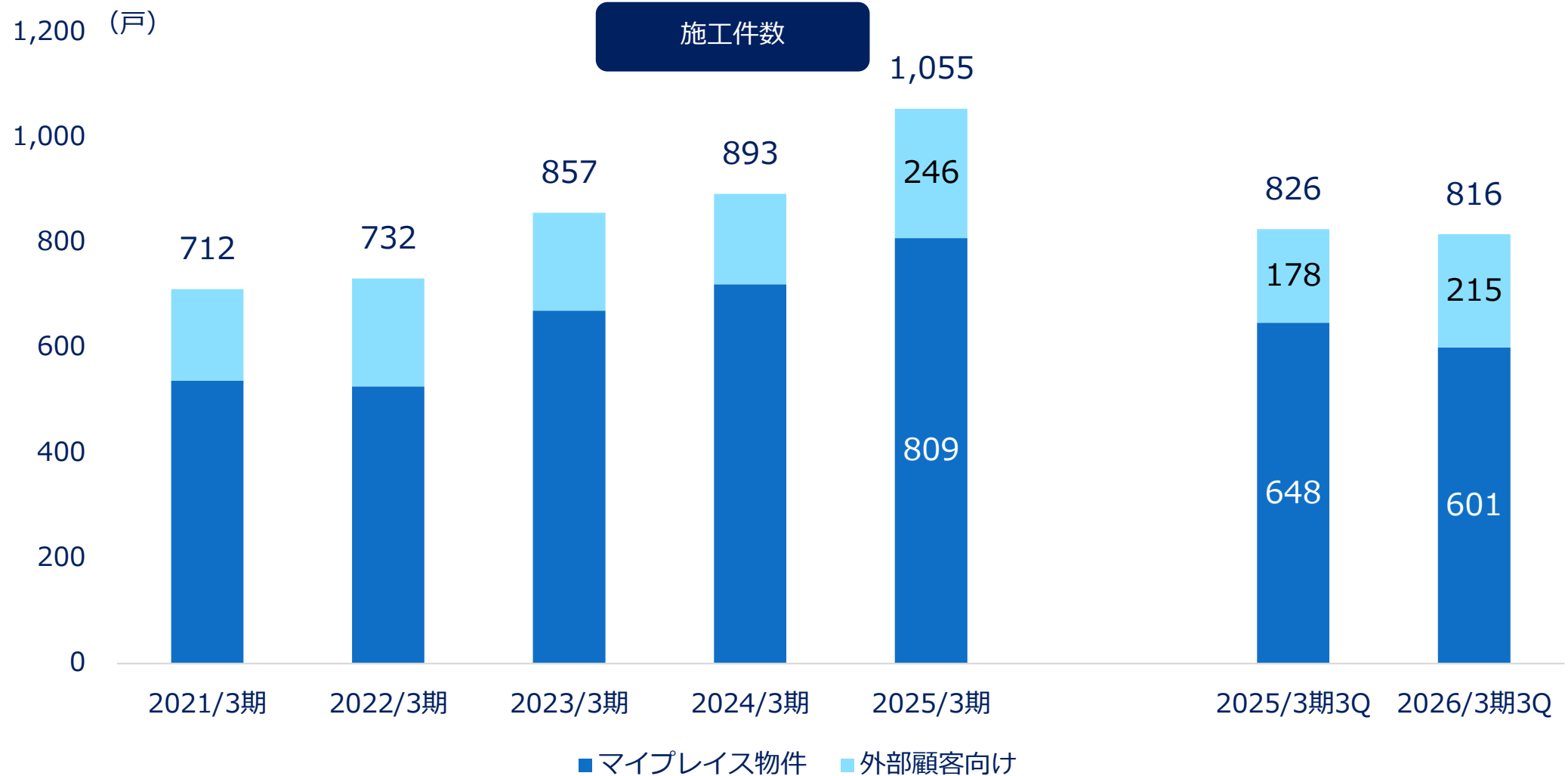


■ 東京都 ■ 神奈川県 ■ その他 関東エリア ■ 関西エリア

不動産セグメント <中古マンション買取販売：マイプレイス・バウテックグループ>

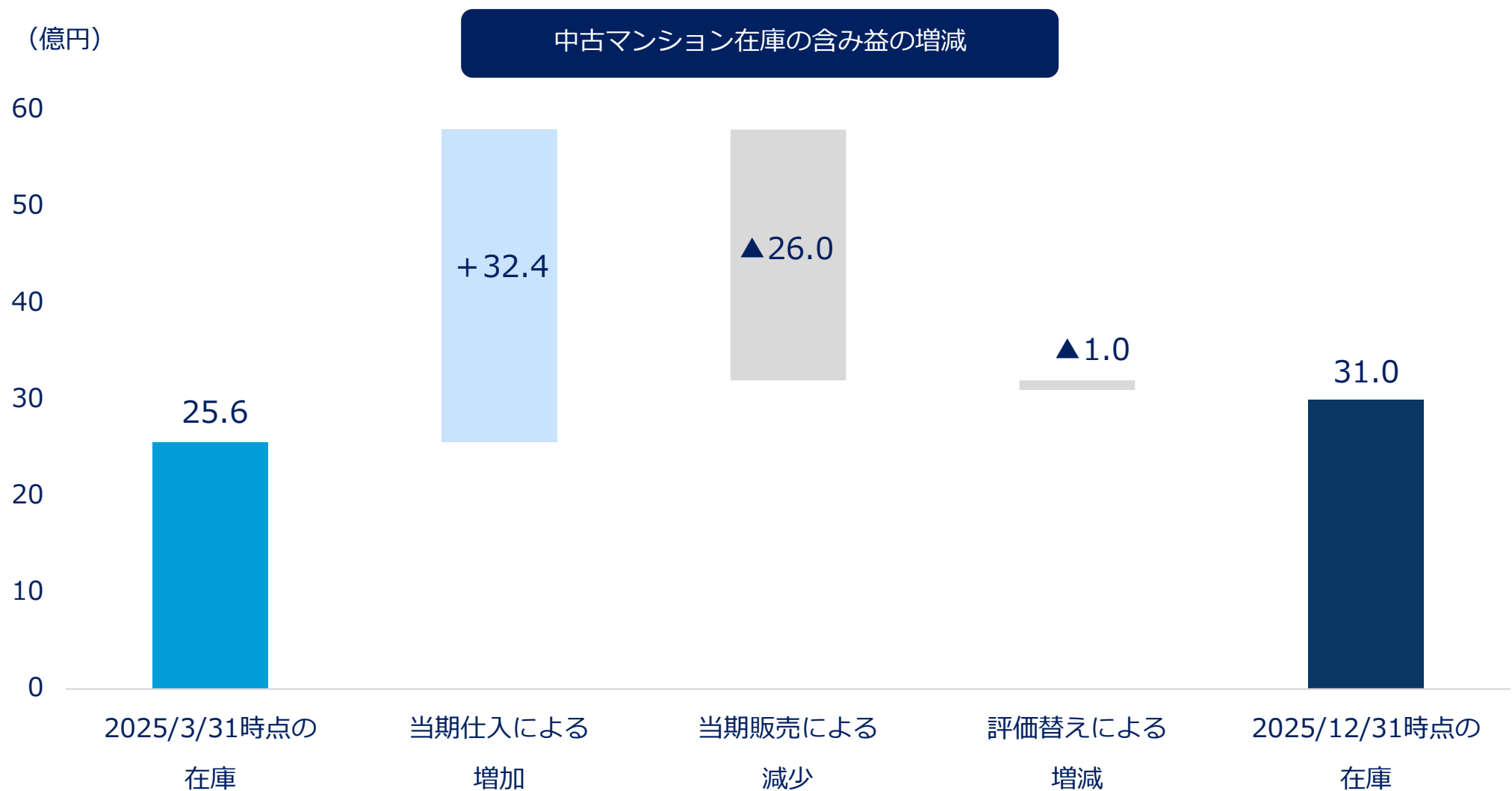
✓ リフォーム工事完工数

- ・ マイプレイスの当期首在庫の減少により、当期の工事完工数は減少
- ・ 今後は、外部顧客向け工事の受注を積極的に拡大する方針



不動産セグメント <中古マンション買取販売：マイプレイス・ハウテックグループ>

✓ 在庫の含み益は31.0億円（空室16.3億円、賃貸人付き14.6億円）



※ 含み益は、社内評価額を基に算出しております。

不動産セグメント <高齢者施設開発：EWアセットマネジメント>

- ✓ 熊本PJ①を2025年9月に売却し、営業収益、営業利益に大きく寄与。
- ✓ 福岡PJを2025年4月に開業し、以降は順調に入居者が増加中。

	開発用地取得	開発	竣工	施設売却
福岡PJ（福岡県福岡市）稼働施設保有中	23/6 出資		25/3 竣工	
杉並PJ（東京都杉並区）稼働施設保有中	23/5 売買契約締結		24/2 竣工・出資	
熊本PJ②（熊本県熊本市）稼働施設保有中	23/3 出資		24/9 竣工	
京都PJ（京都府京都市）	出資		2022/8 竣工	2023/2 売却
西宮PJ（兵庫県西宮市）	出資		2022/7 竣工	2023/2 売却
熊本PJ①（熊本県熊本市）	出資		2022/5 竣工	2025/9 売却
横須賀PJ②（神奈川県横須賀市）	出資		2019/11 竣工	2023/5 売却
横須賀PJ①（神奈川県横須賀市）	出資			2020/1 売却
川越PJ（埼玉県川越市）	出資			2019/12 売却
神戸PJ（兵庫県神戸市）	出資			2019/1 売却
江戸川PJ（東京都江戸川区）	出資			2019/1 売却
枚方PJ②（大阪府枚方市）*1		出資		2023/10 売却
枚方PJ①（大阪府枚方市）*1		出資		2020/1 売却

*1 稼働中施設を取得したため当社グループによる開発は行っていない。

不動産セグメント <高齢者施設開発：EWアセットマネジメント>

✓ 投資実績一覧 13施設 1,450室（2025年12月31日現在）

【関東地区 4施設 437室】

- ①アシステッドリビング湘南佐島 102室
- ⑤アシステッドリビング川越 80室
- ⑥サンライズ・ヴィラ西葛西 80室
- ⑦アシステッドリビング浦賀 85室
- ⑫NEXT-LD新高円寺 90室

【関西地区 5施設 395室】

- ②ハートランド枚方 115室
- ③ReHOPE御殿山南館 43室
- ④イリーゼ神戸青木 66室
- ⑨ホスピタルメント甲東園 59室
- ⑩サニーライフ京都伏見 112室

【九州地区 3施設 618室】

- ⑧メディケア癒やしDX花園 151室
- ⑪メディケア癒やしDX長嶺 313室
- ⑬メディケア癒やし五番館長住 154室



※ ②③は、開発案件ではありません。

証券セグメント <あかつき証券・ジャパンウェルスアドバイザーズ>

証券セグメントについては、あかつき証券(株)とジャパンウェルスアドバイザーズ(株)との連結グループにおける決算説明資料を参考資料として添付しておりますので、23ページ以降をご参照ください。

あかつき証券(株) 2026年3月期 第3四半期 決算説明

本資料は、2026年3月期第3四半期決算の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
本資料は2025年12月末日現在のデータに基づいて作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

◆2026年3月期 第3四半期決算の概要（連結ベース）

- ✓ 預り資産残高※は7,967億円（前期末比+27.3%）と過去最高となり、特に金融商品仲介サービス部門の預り資産残高は5,138億円（前期末比+28.4%）と大幅に増加した。顧客からの入出金庫額（顧客から当社への入金と入庫の金額から、出金と出庫の金額を差し引いたもの）は507億円の純増となった。
- ✓ 営業収益は11,681百万円（前年同期比△3.5%）となった。受入手数料は、株券委託手数料および信託報酬の増加により1,377百万円（同+27.7%）と増加した。一方で、トレーディング損益は4,773百万円（同△28.8%）と減収となった。
- ✓ 販売費・一般管理費は9,988百万円（前年同期比△4.6%）となった。この内、IFAへの支払報酬など収益に連動して増減する変動費は7,275百万円（同△8.0%）と減少した一方、固定費は顧客利便性向上、商品拡充、コンプライアンス関連の新規システム投資等より2,713百万円（同+5.9%）と増加した。
- ✓ 営業利益は1,595百万円（前年同期比+13百万円 +0.8%）、経常利益は1,694百万円（同+120百万円 +7.6%）、四半期純利益は1,155百万円（同△3百万円 △0.3%）と減収減益となった。

※ 2024年4月付の組織改編、組織名称変更に伴い、「リテール部門」を「ウェルスマネジメント部門」、「IFA部門」を「金融商品仲介サービス部門」に変更し、部門間の内訳についても本変更を反映しております。

※ 金融商品仲介サービス部門とウェルスマネジメント部門の内訳は、2022年4月の当社とジャパンウェルズアドバイザーズ株式会社との組織改編を反映しております。

※ 預り資産残高は、当社の預り資産残高と、子会社のジャパンウェルズアドバイザーズ株式会社の提携金融機関における管理資産残高の合計となっております。

※ 外貨建て預金の運用収益は、従来、営業外収益の受取利息に計上しておりましたが、2026年3月期より、営業収益の金融収益に計上することとしました。2025年3月期については、当該表示方法の変更に伴い表示の組替え後の金額を記載しております。

1. 2026年3月期 第3四半期決算（連結）について

◆営業損益の状況

- ✓ 営業収益は11,681百万円（前年同期比△425百万円 △3.5%）、営業利益は1,595百万円（同+13百万円 +0.8%）、四半期累計純利益は1,155百万円（同△3百万円 △0.3%）となった。
- ✓ 営業利益は、2025年4月のトランプ関税により第1四半期は伸び悩んだものの、2025年6月以降の好調なマーケット環境を背景に、第2四半期で574百万円、第3四半期で677百万円と順調に増加し、第3四半期は過去最高を更新した。

(単位：百万円)

	2025年 3月期3Q	2026年 3月期3Q	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
営業収益	12,106	11,681	△3.5%	△425
純営業収益	12,053	11,584	△3.9%	△469
販売費・ 一般管理費	10,471	9,988	△4.6%	△482
営業利益	1,582	1,595	0.8%	13
経常利益	1,574	1,694	7.6%	120
特別損益	△10	△0	-	10
税引前四半期純利益	1,563	1,694	8.4%	131
法人税等合計	404	539	33.2%	134
四半期純利益	1,158	1,155	△0.3%	△3

(単位：百万円)

2025年3月期				2026年3月期		
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
4,208	3,618	4,279	3,935	3,107	4,098	4,475
4,192	3,600	4,261	3,887	3,080	4,059	4,444
3,582	3,202	3,686	3,359	2,736	3,484	3,766
609	397	574	527	343	574	677
616	397	560	539	345	587	762
△0	△6	△4	△14	△0	△0	-
615	391	556	525	345	587	762
201	24	178	79	127	177	233
413	366	378	445	217	409	528

※ 外貨建て預金の運用収益は、従来、営業外収益の受取利息に計上しておりましたが、2026年3月期より、営業収益の金融収益に計上することとしました。2025年3月期については、当該表示方法の変更に伴い表示の組替え後の金額を記載しております。

◆受入手数料の内訳

- ✓ 受入手数料は、6,348百万円（前年同期比+1,377百万円 +27.7%）と増収となった。
- ✓ 株券委託手数料は3,664百万円（同+748百万円 +25.7%）、投資信託の募集・売出し手数料は1,415百万円（同+286百万円 +25.4%）と増加した。信託報酬は653百万円（同+254百万円 +63.8%）と、投資信託の預り資産残高が1,502億円（前期末比+496億円）と継続的に増加していることに伴い増加した。

（単位：百万円）

	2025年 3月期3Q	2026年 3月期3Q	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
受入手数料	4,971	6,348	27.7%	1,377

委託手数料の主な内訳

株券	2,915	3,664	25.7%	748
----	-------	-------	-------	-----

募集・売出し手数料の主な内訳

債券	119	105	△11.1%	△13
投資信託	1,129	1,415	25.4%	286

その他の受入手数料

信託報酬	398	653	63.8%	254
アドバイザー報酬	0	0	△25.0%	0

（単位：百万円）

2025年3月期				2026年3月期		
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
1,733	1,498	1,738	1,939	1,660	2,192	2,496

1,012	848	1,055	982	958	1,278	1,427
-------	-----	-------	-----	-----	-------	-------

59	51	8	34	52	33	20
432	329	367	546	295	500	619

119	134	144	163	184	218	249
-	-	0	35	-	0	-

◆トレーディング損益の内訳

- ✓ トレーディング損益は、4,773百万円（前年同期比△1,926百万円 △28.8%）と減収となった。
- ✓ 株券トレーディング損益は444百万円（同△209百万円 △32.1%）と減少。
- ✓ 債券等トレーディング損益は4,027百万円（同△1,783百万円 △30.7%）。外貨建債券の預り資産残高は1,744億円（前期末比+510億円）と順調に増加しているものの、仕組債非勧誘化の影響もあり減少した。

（単位：百万円）

	2025年 3月期3Q	2026年 3月期3Q	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
株券	654	444	△32.1%	△209
債券・為替等	6,045	4,329	△28.4%	△1,716
（債券等）	5,810	4,027	△30.7%	△1,783
（為替等）	235	302	28.2%	66
合計	6,699	4,773	△28.8%	△1,926

（単位：百万円）

2025年3月期				2026年3月期		
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
249	180	224	140	83	170	189
2,087	1,793	2,165	1,678	1,237	1,500	1,590
2,023	1,721	2,064	1,593	1,161	1,421	1,443
63	72	100	84	75	79	146
2,336	1,973	2,390	1,818	1,321	1,671	1,780

◆部門別純営業収益推移

【ウェルスマネジメント部門】

- ✓ 部門収益は1,947百万円(前年同期比+20百万円 +1.0%)となった。主な内訳として、株式収益が1,104百万円 (同+26.3%)、投資信託収益が334百万円 (同+15.9%)、債券収益が311百万円 (同△43.1%)となった。

【金融商品仲介サービス部門】

- ✓ 部門収益は9,548百万円 (前年同期比△463百万円 △4.6%)となった。主な内訳として、投資信託収益が1,729百万円 (同+41.9%)、株式収益が3,188百万円 (同+8.9%)、債券収益が3,228百万円 (同△32.5%)となった。

全部門の第3四半期純営業収益は4,444百万円と四半期ベースで過去最高となった。

(単位：百万円)

	2025年 3月期3Q	2026年 3月期3Q	前年同期比 増加率	前年同期比 増加額
純営業収益	12,053	11,584	△3.9%	△469
ウェルスマネジメント	1,927	1,947	+1.0%	20
金融商品仲介サービス	10,012	9,548	△4.6%	△463
その他	113	88	△22.2%	△25

2025年3月期				2026年3月期		
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
4,192	3,600	4,261	3,887	3,080	4,059	4,444
692	601	633	622	628	651	666
3,461	2,975	3,575	3,202	2,427	3,378	3,742
38	23	51	62	24	28	35

- ※ 2024年4月付の組織改編、組織名称変更に伴い、「リテール部門」を「ウェルスマネジメント部門」、「IFA部門」を「金融商品仲介サービス部門」に変更し、部門間の内訳についても本変更を反映しております。
- ※ 金融商品仲介サービス部門とウェルスマネジメント部門の内訳は、2022年4月の当社とジャパンウェルズアドバイザーズ株式会社との組織改編を反映しております。
- ※ 外貨建て預金の運用収益は、従来、営業外収益の受取利息に計上していましたが、2026年3月期より、営業収益の金融収益に計上することとしました。2025年3月期については、当該表示方法の変更に伴い表示の組替え後の金額を記載しております。

◆販売費・一般管理費

- ✓ 販管費は、9,988百万円（前年同期比△482百万円 △4.6%）と減少した。
- ✓ 主に顧客利便性向上、商品拡充、コンプライアンス関連の新規システム投資により固定費が152百万円増加した一方、IFAへの支払報酬など収益に連動して増減する変動費が634百万円減少した。

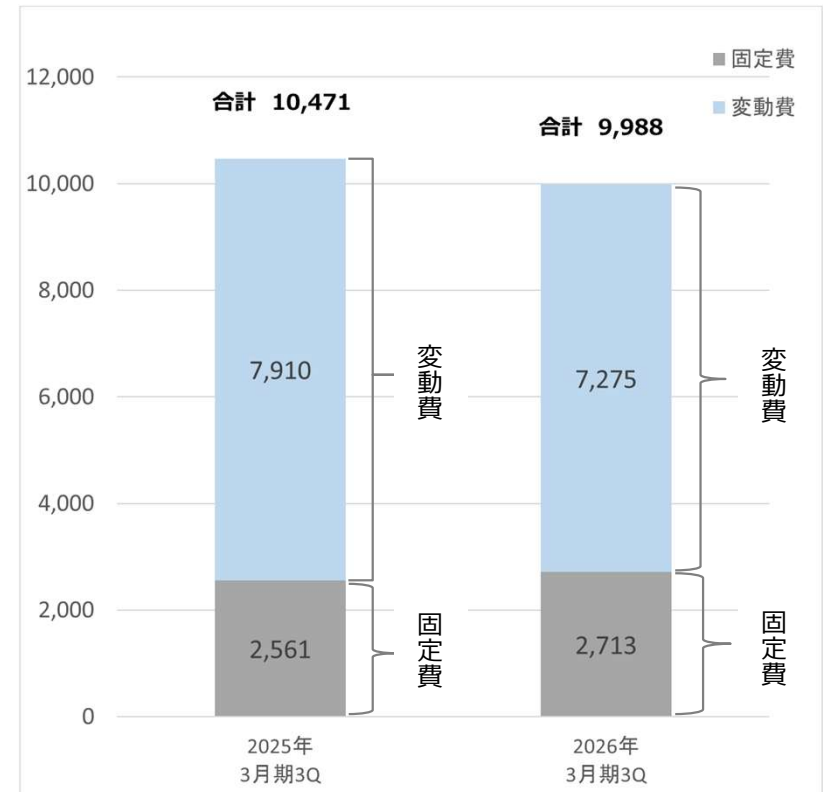
（単位：百万円）

	2025年 3月期3Q	2026年 3月期3Q	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
取引関係費	6,882	5,977	△13.1%	△905
人件費	2,469	2,774	12.4%	305
不動産関係費	309	344	11.1%	34
事務費	607	665	9.5%	57
減価償却費	78	95	21.8%	17
租税公課	71	72	1.8%	1
雑費その他	52	58	12.2%	6
販売費・一般管理費計	10,471	9,988	△4.6%	△482

（単位：百万円）

	2025年 3月期3Q	2026年 3月期3Q	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
固定費	2,561	2,713	5.9%	152
変動費	7,910	7,275	△8.0%	△634

（単位：百万円）



◆貸借対照表

- ✓ 資産は、顧客からの預り金が増加した結果、現金・預金が4,458百万円、預託金が10,200百万円増加したこと等により、前期末より17,269百万円増加した。
- ✓ 負債は、預り金が17,021百万円増加した一方で、顧客分別金預託用に借り入れた短期借入金が1,400百万円減少したこと等により、16,624百万円増加した。
- ✓ 純資産は、四半期純利益の増加により1,155百万円増加した一方で、剰余金の配当により500百万円減少したこと等で、9,184百万円（前期末比+645百万円）となった。

	2025年3月期	2026年3月期 3Q	前年度末比 増減額
流動資産	42,729	59,843	17,113
現金・預金	10,860	15,318	4,458
預託金	23,800	34,000	10,200
信用取引資産	4,682	4,833	151
その他流動資産	3,387	5,691	2,304
固定資産	1,473	1,628	155
資産合計	44,202	61,472	17,269

（単位：百万円）

	2025年3月期	2026年3月期 3Q	前年度末比 増減額
流動負債	35,165	51,779	16,614
信用取引借入金	1,157	1,934	776
預り金	22,468	39,490	17,021
短期借入金	8,900	7,500	△1,400
受入保証金	800	974	174
その他流動負債	1,838	1,880	41
固定負債	442	451	9
特別法上の準備金	55	55	-
負債合計	35,663	52,287	16,624
純資産	8,539	9,184	645
株主資本	8,501	9,180	679
その他有価証券評価差額金	29	△5	△34
新株予約権	9	9	-
負債純資産合計	44,202	61,472	17,269

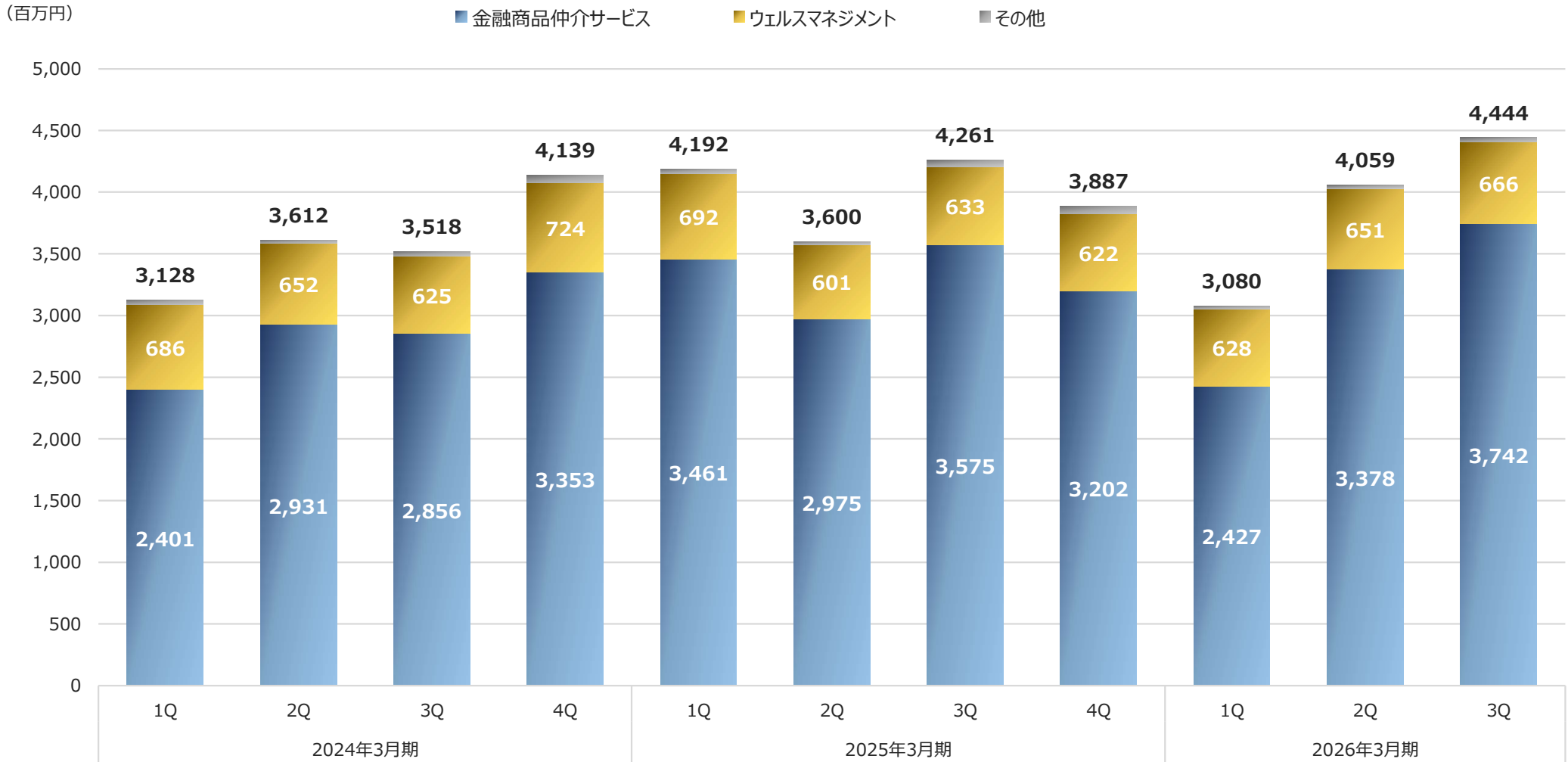
◆自己資本規制比率の状況

	2024年3月期				2025年 3月期				2026年 3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
自己資本規制比率(%)	412.2	416.2	406.1	398.9	380.9	416.8	381.4	404.9	368.1	382.2	387.0
控除後自己資本	5,215	5,503	5,289	5,681	6,186	6,454	6,406	6,894	7,110	7,432	7,356
リスク相当額	1,265	1,322	1,302	1,424	1,623	1,548	1,679	1,702	1,931	1,944	1,900
市場リスク相当額	78	112	14	46	81	45	33	114	207	126	33
取引先リスク相当額	234	204	239	266	367	291	400	298	432	532	532
基礎的リスク相当額	952	1,005	1,048	1,110	1,174	1,211	1,245	1,289	1,291	1,284	1,334

2. 業績の推移について

◆純営業収益の推移（部門別）

✓ 当第3四半期における当社の純営業収益は、4,444百万円（前四半期比+385百万円）と過去最高となった。



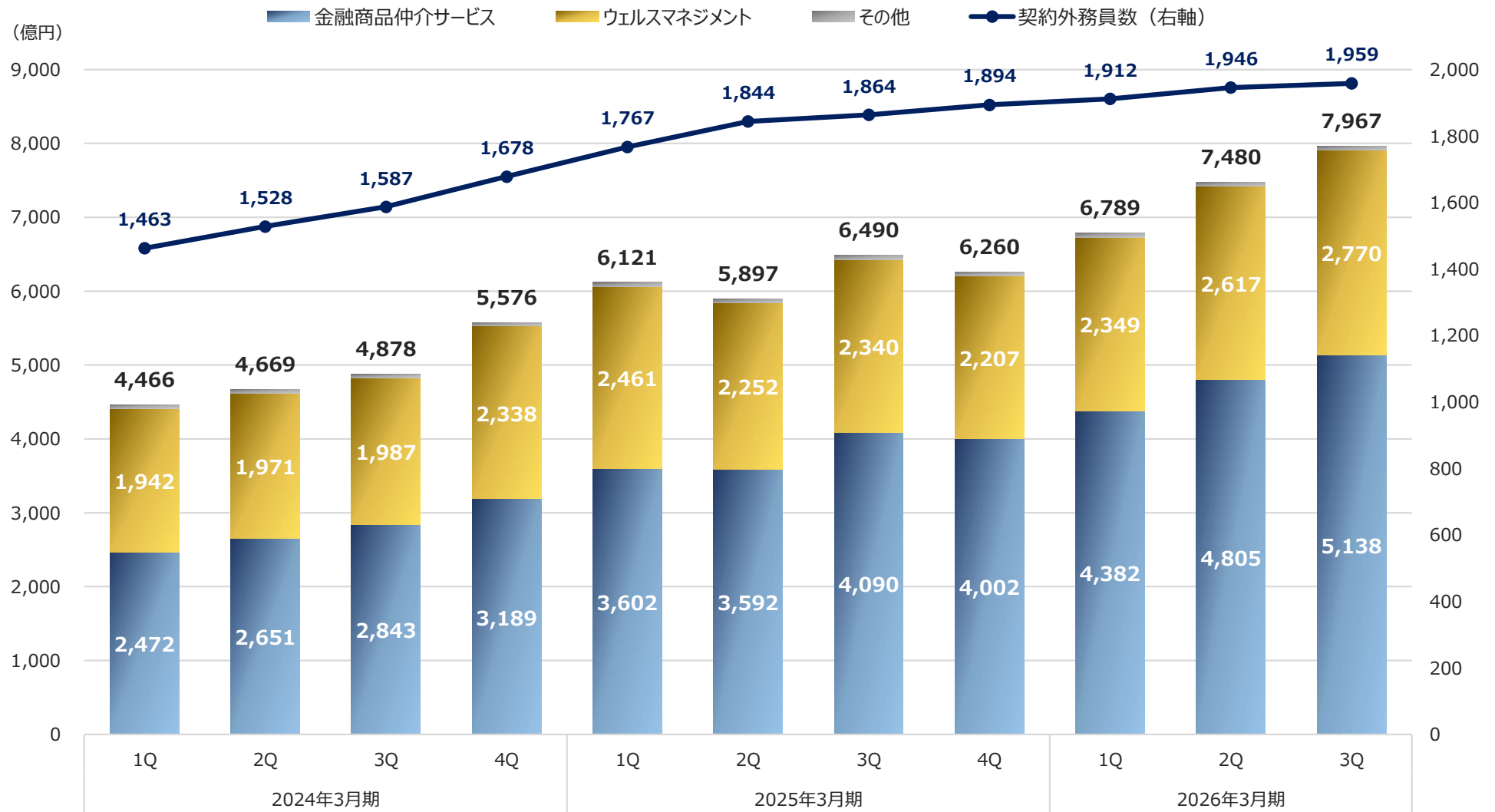
※ 2024年4月付の組織改編、組織名称変更に伴い、「リテール部門」を「ウェルスマネジメント部門」、「IFA部門」を「金融商品仲介サービス部門」に変更し、部門間の内訳についても本変更を反映しております。

※ 金融商品仲介サービス部門とウェルスマネジメント部門の内訳は、2022年4月の当社とジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社との組織改編を反映しております。

※ 外貨建て預金の運用収益は、従来、営業外収益の受取利息に計上していましたが、2026年3月期より、営業収益の金融収益に計上することとしました。2025年3月期については、当該表示方法の変更に伴い表示の組替え後の金額を記載しております。

◆ 預り資産残高の推移（部門別）

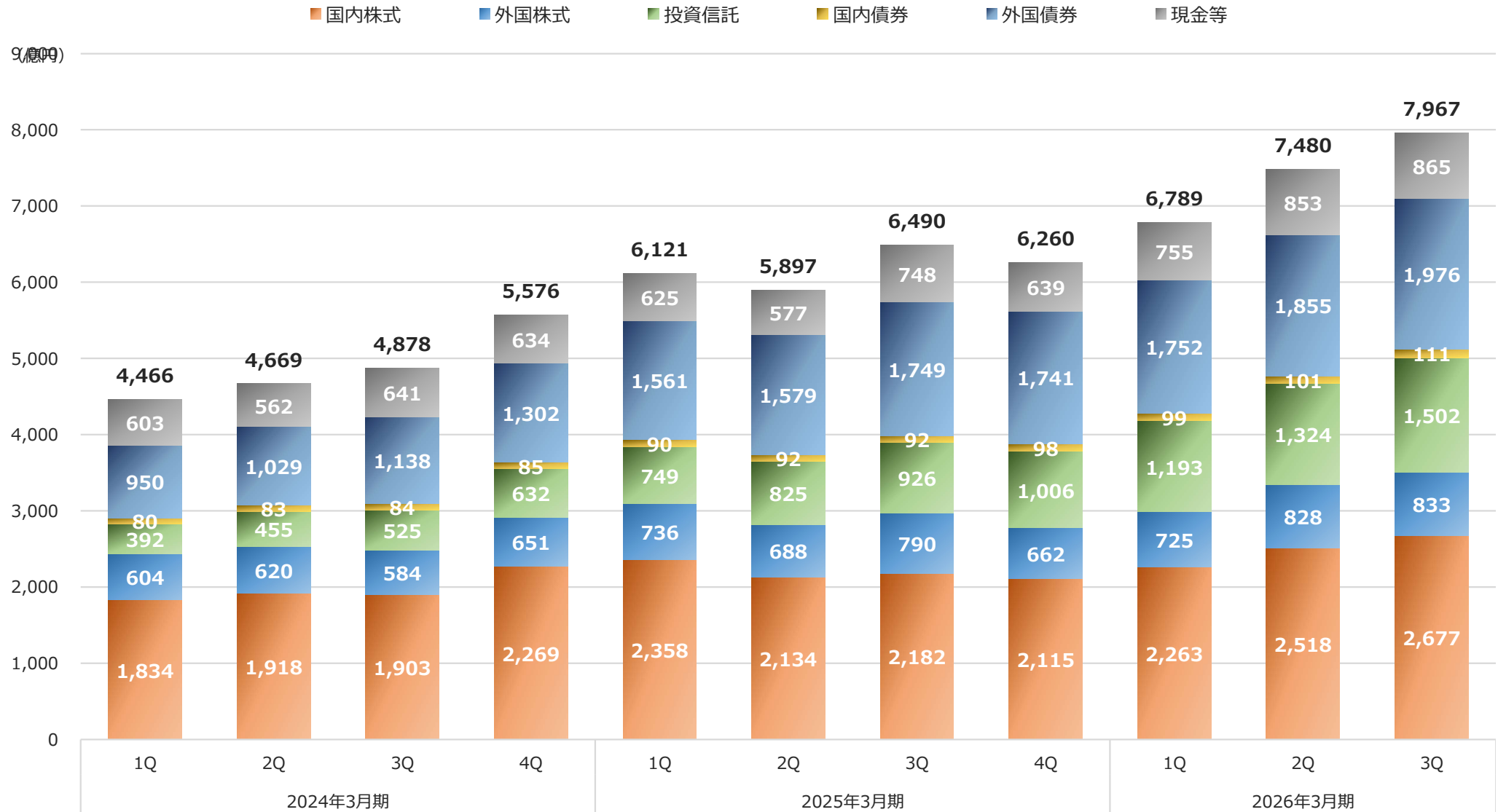
✓ 預り資産残高は、7,967億円（前四半期比+487億円）と過去最高となった。



- ※ 2024年4月付の組織改編、組織名称変更に伴い、「リテール部門」を「ウェルスマネジメント部門」、「IFA部門」を「金融商品仲介サービス部門」に変更し、部門間の内訳についても本変更を反映しております。
- ※ 金融商品仲介サービス部門とウェルスマネジメント部門の内訳は、2022年4月の当社とジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社との組織改編を反映しております。
- ※ 預り資産残高は、当社の預り資産残高と、子会社のジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社の提携金融機関における管理資産残高の合計となっております。
- ※ 2025年10月より、一部顧客の預かり資産の区分をウェルスマネジメント部門から金融商品仲介サービス部門に変更しました。当該変更に従い、2025年10月以前の数値も遡及して変更しております。

◆ 預り資産残高の推移（商品別）

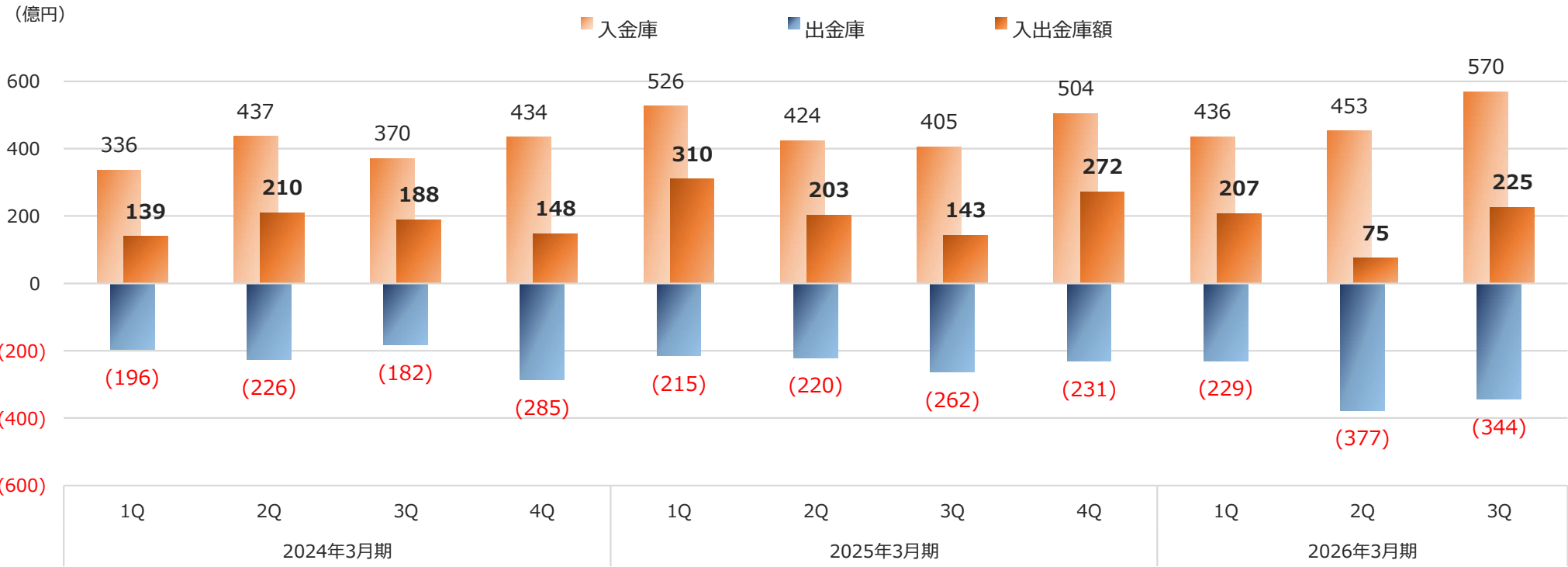
- ✓ 商品別の預り資産残高は、投資信託で1,502億円（前四半期比+178億円）、外国債券で1,976億円（前四半期比+121億円）と大幅に増加した。



※預り資産残高は、当社の預り資産残高と、子会社のジャパンウェルスアドバイザーズ株式会社の提携金融機関における管理資産残高の合計となっております。

◆入出金庫額の状況

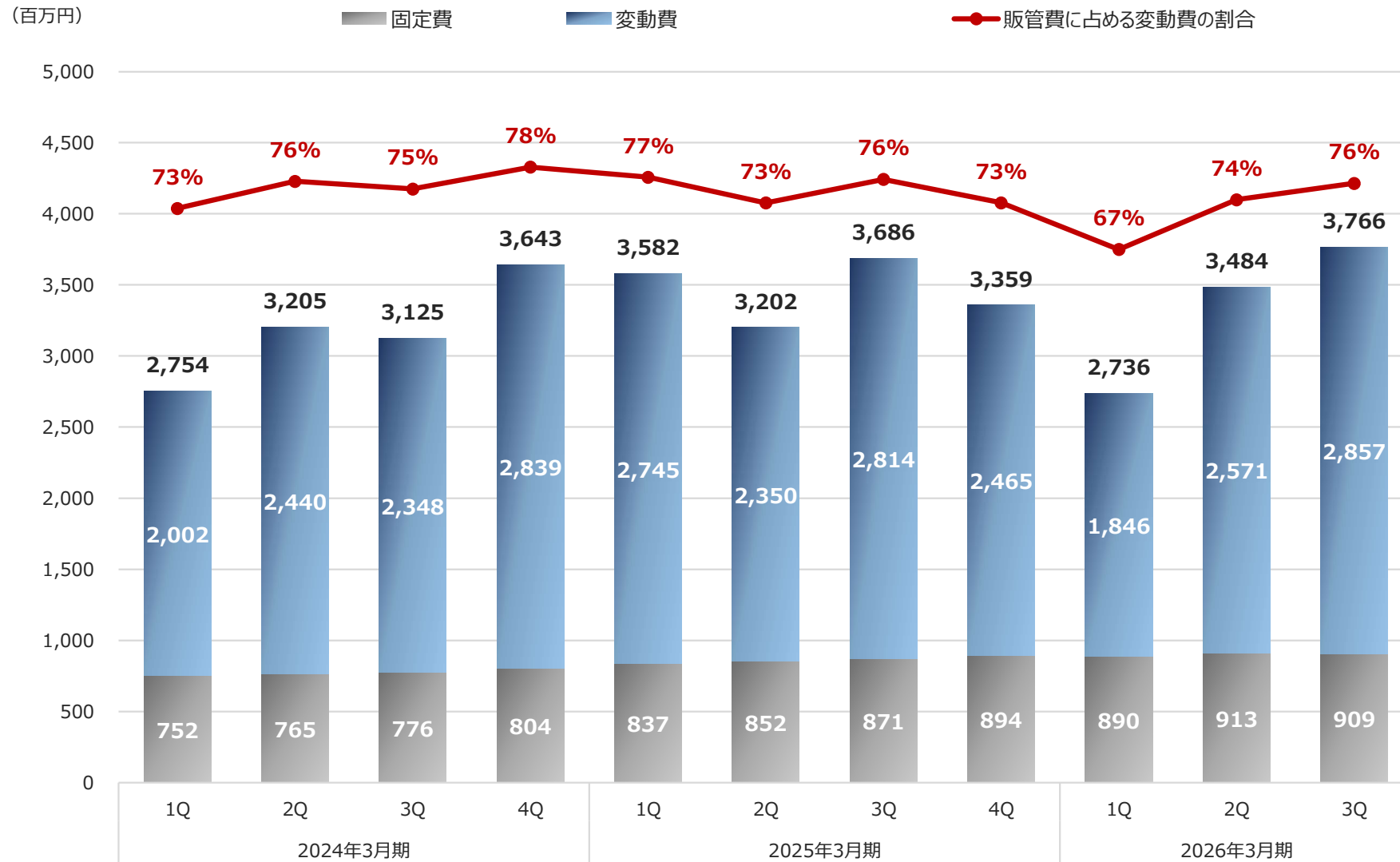
✓ 入出金庫額（顧客から当社への入金と入庫の金額から、出金と出庫の金額を差し引いたもの）は、当第3四半期で225億円の純増となった。
 金融商品仲介サービス部門の堅調な拡大に伴い、継続的に資金導入が図れている。



	2024年3月期					2025年3月期					2026年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q
入金	290	392	382	388	1,398	456	374	346	431	1,609	383	410	493
入庫	45	45	42	45	177	69	50	59	73	251	53	43	76
入金庫	366	437	370	434	1,577	526	424	405	504	1,860	436	453	570
出金	△175	△194	△147	△249	△765	△151	△185	△220	△197	△763	△196	△292	△264
出庫	△20	△32	△34	△36	△122	△64	△35	△42	△34	△176	△33	△85	△80
出金庫	△196	△226	△182	△285	△889	△215	△220	△262	△231	△930	△229	△377	△344
入出金庫額	139	210	188	148	685	310	203	143	273	930	207	75	225

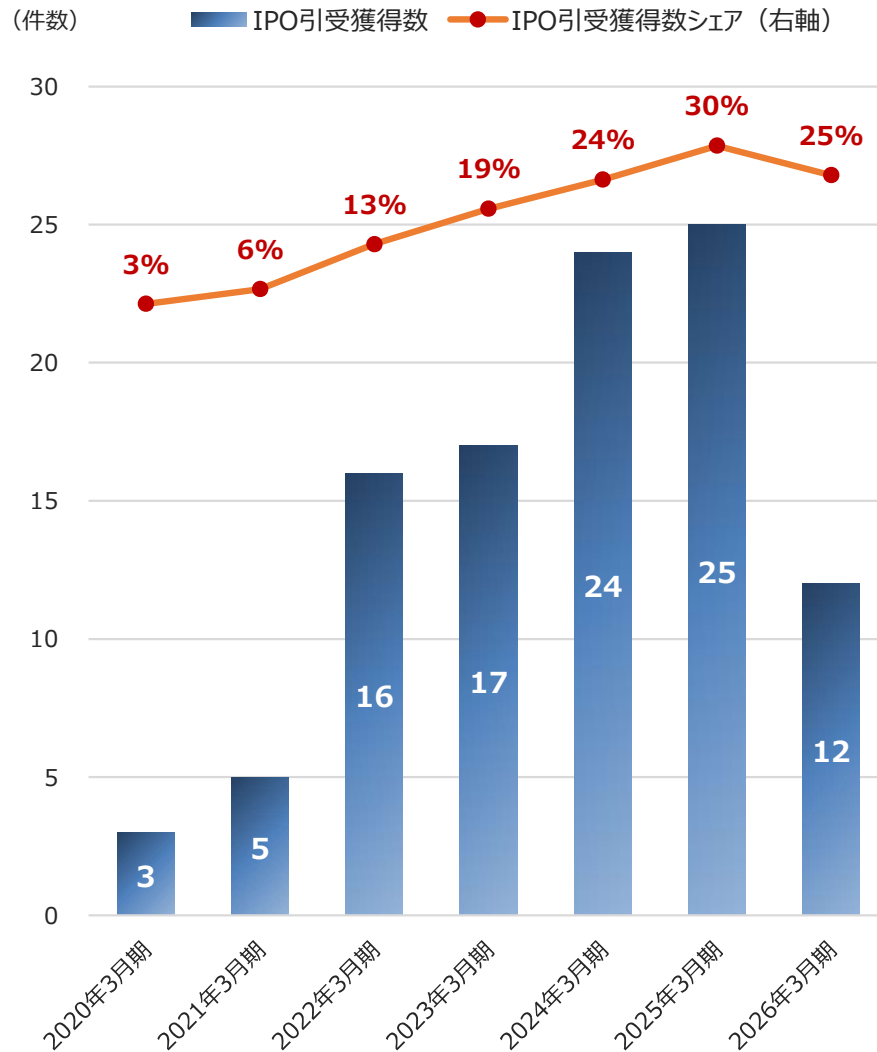
◆販管費及び販管費に占める変動費の割合

- ✓ 当第3四半期における当社の販管費は3,766百万円となり、販管費に占める変動費の割合は76%と引き続き高水準を維持しており、安定的な経営構造の確立を図っている。



◆IPO市場への取り組み

✓ 当第3四半期は市場全体で48社が新規株式公開し、うち当社獲得件数は12社、当社シェアについても25%となった。



IPO引受獲得数ランキング 2025年4月～2025年12月			
順位	引受会社	件数	シェア
1	SBI	46	96%
2	楽天	32	67%
3	松井	32	67%
4	マネックス	27	56%
5	岡三	27	56%
6	岩井コスモ	24	50%
7	野村	23	48%
8	みずほ	23	48%
9	大和	20	42%
10	東海東京	20	42%
11	日興	20	42%
12	丸三	17	35%
13	三菱UFJ	13	27%
14	あかつき	12	25%
15	水戸	12	25%
16	極東	11	23%

※日本取引所グループ公表資料をもとに当社作成

<免責事項>

本資料に記載されている予想・見通しは、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

本資料に記載されたデータには、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した公開情報の引用が含まれておりますが、当社がその内容の正確性・確実性を保証するものではありません。

本資料は、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資に際しては、投資家ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。

<問い合わせ先>

株式会社あかつき本社 経営管理部